

公益財団法人中島記念国際交流財団助成事業及び
文部科学省特別経費事業 広域アジアものづくり技術・人材高度化拠点形成事業
2017年11月21日 国際シンポジウム

勝又 美穂子

広域アジアものづくり技術・人材高度化拠点形成事業 極限環境対応グローバル接合部門 特任准教授（常勤）

平成 25 年度より、当研究所と本学言語文化研究科が主となり、文部科学省特別経費事業「広域アジアものづくり技術・人材高度化拠点形成事業」を実施しています。本事業は広域アジア地域における①大学・研究機関、企業とのネットワーク構築、②接合技術基盤の構築、③カップリング・インターンシップ（CIS）の実施（文理+海外融合型）を3本の柱として取り組んでいます。この一環として、本年度は本事業と中島記念国際交流財団事業からの支援により、広域アジアものづくり技術・人材高度化研究センターと日本学生支援機構(JASSO)が共同主催で11月21日（火）に東京国際交流館にて国際シンポジウムを開催しました。本シンポジウムは、その他協賛として高橋産業経済研究財団、及び文部科学省、外務省、江東区からの後援を受けて開催となりました。本年度は当事業5年目の区切りとして、「海外から見る日本のグローバル人材育成ー世界の大学やグローバル企業の声から学ぶー」というタイトルで、特別講演に田原総一郎氏、ゲストMCに木佐彩子氏、及び海外大学、企業からも多くのご講演者・登壇者をお迎えしての開催となりました。基調講演Ⅰは南洋理工大学キャリアアタッチメントオフィス部長のLoh氏より、シンガポールの経験から日本のグローバル人材育成に係る取り組みについて客観的な意見を頂戴しました。本人のみならず、家族、社会が一丸となって取り組むことの重要性が語られました。また、第一部のパネルディスカッションではゲストMC木佐氏のリードの下、本事業で実施してきたCISに参加した本学及び海外からのパネラーが、活動を通して感じたこと考えたことを率直に語りました。日本人の持つ先輩への配

慮や周囲への遠慮がグローバル活動では時に意思疎通を滞らせる原因になる、との意見もあり、興味深いものでした。第二部の特別講演では田原総一郎氏が、日本の大手メーカーがアメリカに研究所を設置し、研究開発を行う動向、世界が反グローバル化している現実、日本の若い世代への期待及び、教育的アドバイスなどを交えて、多角的な視点から日本のグローバル人材育成について講演されました。基調講演Ⅱでは千代田化工建設ChAS・ライフサイエンス事業本部AIソリューションユニットジェネラルマネージャーの井川氏から、長い現場でのグローバル経験と分析から、世界ではきめ細やかなアイデアと業務姿勢が日本人の強みとして秀でていること、そうした強みを今一度捉えなおし、グローバル社会で発揮できるよう伸ばしていく必要性、及び、AIが発達する今後、自己の役割を分析し、変化を好機と捉えて活躍できることが重要であるとお考えが共有されました。本学横江特任教授からは、過去5年間に渡るCISの活動と分析報告が行われ、参加学生からは「相手への気遣い」がグローバル活動で最も重要であると述べられている点などが共有されました。また、企業、国内外大学からのパネリストが集ったパネルディスカッションⅡでは、産学・国を越えたグローバル人材育成に係る連携は継続が重要であること、また、活動のフォローの重要性も語られました。当日は平日にも関わらず140名もの方に足を運んで頂きました。このシンポジウムが今後の日本におけるグローバル人材育成活動に少しでもヒントを提供できるものとなったことを期待します。



挨拶：日本学生支援機構理事長 遠藤勝裕氏



開会：大阪大学接合科学研究所所長 南二三吉氏



基調講演 I：南洋理工大学 Loh Pui Wah 氏



パネルディスカッション I の様子



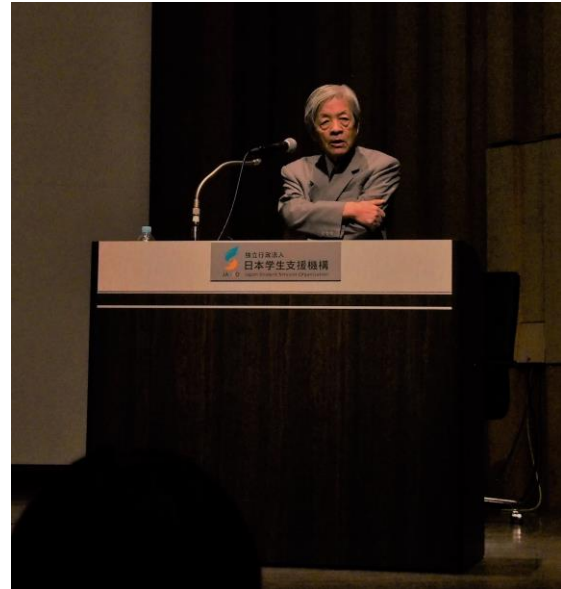
パネルディスカッション I：MC 木佐彩子氏



パネルディスカッション I：海外学生の様子



特別講演：田原総一郎氏



特別講演：田原総一郎氏



基調講演 II：千代田化工建設 井川玄氏



講演：大阪大学言語文化研究科 横江好一氏



パネルディスカッション II の様子



パネルディスカッション II の様子